

第 250 回生理学東京談話会

会 期：令和 2 年 11 月 14 日（土）

会 場：zoom によるオンライン開催

当番幹事：自治医科大学医学部生理学講座統合生理学部門 中條浩一
自治医科大学医学部生理学講座神経脳生理部門 尾仲達史

第 250 回生理学東京談話会は、自治医科大学医学部生理学講座が当番幹事で開催されました。当初栃木県の自治医科大学キャンパスで開催される予定でしたが、COVID-19 の感染状況を鑑み、zoom を使用したオンラインでの開催となりました。zoom での開催ということで事前登録を必須としました。事前登録者数は 45 名、当日実際に参加した人数は 40 名でした。

11 の一般演題に加え、国際医療福祉大学の山下勝幸教授による「視神経の形成」、自治医科大学の尾仲達史教授による「オキシトシンの多彩な働き」という 2 つの特別講演が行われました。初めてのオンライン開催ではありましたが、大きなトラブルもなく、会はスムーズに進行しました。大学院生、学部学生をはじめ、多くの若い方の発表を中心に、分子から個体レベルまで、また神経、循環、内分泌、生理学教育など、多岐にわたる分野の発表が行われました。オンラインということもあり、やや質問がしにくい雰囲気だったかもしれないことは反省点ですが、このような状況であっても、関東の生理学研究者が集まって議論することができたのは収穫だったのではないかと思います。最後に次回当番幹事である、北里大学の高橋倫子教授から挨拶があり、閉会しました。

地方会抄録はウェブページ <http://physiology.jp/nisseishi/> に掲載させていただくことになりました。（Pt 2）p. 13～p. 16 をご覧ください。